

# 日野川の歴史

## 第1回 おかかの日野川

杉本 良巳

人は無性にひとりになりたいときがある。そんな時、わたしは日野川の土手を歩く。すると若き日々の口ずさんだ歌が思い出される。

『冬去り春の訪れて  
日野の流れも水ぬるみ  
ラインの春を想わする  
瀬音も高く青春の  
華をたたえてゆくものを』

日暮れの日野川は川面に夕日を反射して静かに流れている。南部町の歌人伊藤徹也の歌に、

『ゆきゆきて日野川堤長きかな松風の中に我一人居る』  
という名歌があるが、日野川土手は孤独な心をなぐさめ包む癒しの場所であろうか。伯耆町出身の作家大江賢次は帰郷のつど、大山には「おやじさん、ただいま」と呼びかけ、日野川には「おかか、もどったぜえ」と挨拶するのをならわしにしていたという。

いまその下流はコンクリートの護岸をまとった武骨な姿を現しているが、かつての日野川は幾うねりつつ流れていて、ふるさとに暮らす者にとっても、出郷した者にとってもまぎれもなく母なる川であった。

わが国の代表的な山岳写真家のひとりで、また高山蝶研究の第一人者であった田淵行男は、その幼年期を日野川のほとり黒坂で過ごしたが、彼はその頃の思い出を「蝶を追って」にまとめている。

「生まれ故郷は鳥取県大山の南西の麓にあたる小さな山里であった。そこで小学校四年まで暮らした。家の裏手にすぐ日野川が流れていて、川岸に沿って細い道が通じていた。その道沿いの一か所に毎年初夏、きまって夥しい毛むしとも芋むしともつかぬ妙な形の虫がつく草があった。そして間もなく、同じ場所で大きな黒い蝶が垂下しているのが見られた。その腹部の毒々しい紅色が今でも鮮烈に記憶に甦ってくる。今考えるとジャコウアゲハで、奇妙な形の芋虫はその幼虫であったわけである」

日野川のやさしさは、土手においても多く生けるものを育てていた。

日野川は県西部を流れる県最大の川で、流長77.4キロメートル、流域面積860平方キロに及んでいる。その源流には八岐のオロチやアメノムラクモノ剣の伝説で有名な船通山をはじめ、三国山、道後山など標高1,000メートルを越す山々が連なっている。

そのうち三国山(1,004メートル)の北東麓、日南町新屋

今号より、シリーズとして4回にわたり、「日野川の歴史」をご紹介します。

- 第1回「おかかの日野川」(地勢)
- 第2回「たたら製鉄と日野川」(鉱業と洪水)
- 第3回「日野川の渡し」(交通)
- 第4回「めぐみの日野川」(生物と漁業)

字天ヶ淵に源を発し、広島から米子に通じる国道183号と並びつ離れつしながら多里谷を下る流れが本流といわれ、生山橋の袂で石見川と合流する。

石見川は花見山を源とし、本流と合流する手前で奥日野県立公園となっている景勝「石霞溪」をつくり出し、やがて生山の町裏を過ぎたところで印賀川を呑み込む。

こうして次第に水量を増し、川幅を広げた日野川は中流の根雨で、俣野川、船谷川、小江尾川を合わせると、川筋を大きく湾曲して北北西に向かい溝口で野上川が合流する。中流の日野川右岸は大山の山腹を削って流れるため崖つづちが多く、「歩危」と呼ばれる歩行困難な箇所や深い淵を形づくっている。黒坂の孫四郎橋の近くの「寝覚峡」、佐川付近の「水ヶ淵」などは「石霞溪」につく景勝地としても知られている。またそうした淵には河童伝説がいろいろを添えている。

ちなみに「歩危」の地名について、「地名の語源」の著者鏡三完二・明克父子は「崖。中国地方に多く、全国に及ぶ」として「伯耆」を崖の多い国の意としている。中世から近世にかけて海岸部と奥日野を結ぶ交通路(富田街道・小出雲街道)は日野川筋を避け、溝口宿から二部宿を経て間地峠を越えて根雨宿に出たのは、そのゆえである。

やがて伯耆町岸本付近では大山山麓から押し出された礫層を押し流して段丘崖を形成する一方、扇状地を出現して米子平野に出、下流域の米子市観音寺で法勝寺川を合わせて北流し、美保湾へ注ぐ。支流河川は12を数えるが、それらの河川の大部分は谷川と呼ばれるほどの山地の狭間にあって平地を流れることは少ない。従って流域面積のわずからパーセントが平地という急流である。

日野川のこの急流という特色が、人々の暮らしに大きな影響を与え、梅雨時、台風、雪解けに大洪水をもたらし、反対に日照りが続くと忽ち旱魃となる。しかし、おだやかなときの日野川は、かんがい用水、飲雑用水源として、また観光資源として貴重な存在である。さらに近年では人々の心を癒す自然の風物詩として欠くことができない。

### 執筆者プロフィール

#### 米子市歴史館運営委員長

杉本 良巳 さん

鳥取師範学校卒業後、ラングーン日本人学校長、五千石小学校長、山陰歴史館副館長、山陰歴史館館長、大山寺宝物館名誉館長、山陰歴史館運営委員長を経て2006年(平成18年)から現職。米子市史編集に携わる。